76 第八高等学校創立百年を記念して―八高会―

これまで本連載でも何度か取り上げた第八高等学校（八高）は、1908（明治41）年に創設された旧制高等学校で、今年2008（平成20）年に創立100周年を迎えます。八高は、戦後の学制改革にともなって1949（昭和24）年に新制名古屋大学に包括されて本学の瑞穂分校（旧教養部）となった後、1950（昭和25）年３月末日に廃止されました。

母校が廃止された後、八高卒業生は東京（1950年８月）、名古屋（1954年６月）をはじめとして各地区で同窓会（八高会）を創設し、各八高会が独自に活動を行った時期が長く続きました。しかし2001（平成13）年になって、各地区の八高会を一本化して現在の八高会が設立され、その本部・事務局が母校の地である名古屋市内に置かれています。この間、八高会は、1958（昭和33）年の八高創立50年祭など八高創立の周年行事を定期的に開催するとともに、節目ごとに記念誌等を刊行しています。

名古屋大学では、かねてから八高関係資料の収集を行っていましたが、2005（平成17）年２月に八高会（当時会長は故・山田鐐一名誉教授）から八高会資料の保存管理のための寄附を受けました。これをうけて大学文書資料室では、八高会機関紙バックナンバーのCD-ROM化を行うとともに、「創立百年記念」となる今年に向けて、八高会の協力を得ながら、同校卒業生に対して関係資料の提供を呼びかけてきました。その結果、2008（平成20）年７月現在、大学文書資料室は、八高会を通じて過去３回にわたって約40名の会員から約580点におよぶ資料の寄贈を受けています。

今年10月18日、八高会は、全国各地から名古屋市内に会員が集って「八高創立百年記念祭」を開催する予定です。

尾張

2005年（平成17年）2月11日（金曜日）

尾・な・東・近・知

「八高会」資料を永久保存

創立100年後3年 名大施設で試み進む

旧制第八高等学校（旧名古屋大教養部の前身）の卒業生でつくる「八高会」の書籍や資料を、名大の大学文書資料室で永久保存する試みが進んでいる。十日には八高会の役員らが名古屋市千種区の名大を訪れ、「資料の管理費に」と五十万円を寄付した。文書資料室は「大先輩」ゆかりの品々を集めた八高コーナーの設置を計画しており、関係者は「創立百年記念となる、三年後の二〇〇八年を目標に収集を進めたい」と意気込む。

（後藤 厚二）

八高関連の資料はこれまで、八高会の役員が手分けして保管。名古屋市博物館や長野県松本市の旧制高等学校記念館などにも寄贈されている。名大が学校史に関連した資料収集を進める中、昨年十一月、文書資料室が八高会の関連資料を永久保存することが決まった。

この日は会長の山田鐐一・名大名誉教授（八二）、事務局長の青木幸一郎・岐阜大名誉教授（八四）ら五人の役員が名大を訪問。平野真一学長に寄付金の目録を手渡した後、文書資料室を見学。平野学長の「大先輩のご厚意を大切に使わせていただきます」との言葉に、山田会長は「計画が進めば、追加の寄付も考えていきたい」と笑顔で応えた。

現在、八高会が寄贈しているのは、同窓会の機関誌や卒業生の著作など。今後は八高の制服やマント、運動部のユニホームや八高時代のアルバムといったゆかりの品々を集め「八高コーナー」として展示していく予定。寄付された五十万円は、機関誌などのCD―ROM化の費用に充てる。

八高の卒業生は一万千人。哲学者の梅原猛さん、元経団連会長の平岩外四さんなどそうそうたる顔ぶれが並ぶ。しかし、最年少の会員でも七十代と高齢化が進んでおり、他の旧制高校同窓会も解散が相次ぐ中、三年後の創立百年祭を一活動の一つの区切りとしたい」としている。

山田会長は「会員一人ひとりが貴重な資料を持っているが、生きているうちは手元に置いておきたい気持ちもある。百年祭を目標に、積極的に資料の提供を呼びかけていきたい」と話す。

平野学長㊧に目録を手渡す山田会長㊨

八高会関連の資料を見る役員ら＝いずれも名古屋市千種区の名古屋大で

1 これまでに刊行された主な創立記念誌（50年、70年、80年、90年）
2 八高創立80年記念祭の様子（1988年、吹上ホール）
3 『中日新聞』2005年２月11日付22面（同社提供）

本連載で紹介できる名古屋大学の歴史に関する情報をお持ちでしたら、大学文書資料室（052-789-2046、nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp）へご連絡ください。